

3番 小松ひとみです。通告に基づきまして一般質問を行います。

## 1 防災マップのジオラマ化について

本町では、台風 10 号による豪雨災害で大きな被害を受けてから「地域防災力」を高める取り組みに力を注いできました。3年計画での防災士養成も本年度で200名達成を叶えようとしています。

私が、防災士養成講座で最初に学んだことは、地球環境の変化から大きな自然災害はこれからどこでも起きうることだということです。毎年、災害が絶対にあるはずのない場所だと思っけていても、人間の想定を超えた事例が次々と起きています。私はこれから、どのように知識をつけ、訓練をし、学んで、伝えていくべきかと考えています。

昨年2月、『「身近な防災マップ」～みんなで築こう防災・減災の町～』が全戸配布されました。災害時の行動マニュアルだけでなく、イラストも多く入れた、とても

見やすく大いに活用できるものです。町民の皆さまには、今一度広げてみていただきたいものです。

広大な面積を持つ本町を見渡す時、紙の上の平面地図からしか位置関係を知りえません。

そこで、さらなる防災意識の醸成のため、子どもたちを含めた地域住民が一体となり、防災マップの立体地形模型、ジオラマを作る取り組みを提案します。山の形、川の流れ、平地、地形を立体的に知ることができ、防災マップより踏み込んだ活かし方になります。自ずと一歩進んだ防災教育と地域を詳しく知る機会になると思いますが、町長のお考えをお伺いします。

## 2 高齢者の運転免許証自主返納への支援について

三陸沿岸道路の延伸で各地への時間短縮がめざましく、便利さを感じるとともに私はいつまで運転できるだろうと考えることが多くなりました。

それというのも80歳を超えた方が、「車は生活に欠かせないから運転をまだ頑張る」、「歳はとっても自分は大

丈夫だ」と言っており、事故を起こしたら大変なことになると私は不安を感じたからです。

そこで、他の自治体では、独自に高齢者に対する運転免許証自主返納者への支援を行っているところもあります。本町では、支援は行われていないと認識しておりますが、あってしかるべきと私は考えます。

これまで支援策を講じていない理由と高齢者の交通手段の確保策を今後どのように展開していくのか、町長のご所見をお伺いします。

### 3番 小松 ひとみ 議員の御質問にお答えします。

はじめに、防災マップのジオラマ化でございしますが、議員お考えのとおり自然災害はどこでも起き、そこには、自然地形が大きく関わっていると考えております。

これまで各学校から御協力を得て総合学習を利用した防災学習として、3D地形分類図を活用した過去の災害からの地形の変化の学習を積み重ねてきました。

最近では、有芸小学校での防災研修会において、ドローンを活用し、上空から有芸地区の山や川などの地形を見るという取組を行い、子供たちがとても関心をもって、「知り、考える」きっかけとなったものと感じて

おります。

引き続き、このような地形から学ぶ防災活動を展開し、町民の皆様と一体となり、防災・減災のまちを築いてまいりたいと考えております。

議員御提案の立体模型ジオラマを作る取組につきましては、知ることに作ることが加わり、防災教育の取組として有意義なことから、研究検討を行ってまいりたいと考えております。

次に、運転免許証自主返納者への支援についてであります。高齢者ドライバーによる交通事故は社会問題化しており、高齢化が著しい本町においても、高齢者に対する運転免許

証自主返納も推進しながら、交通対策に取り組んでいく必要があるものと認識をしております。

本町では、運転免許証の返納者に限らず65歳以上の町民の皆様を対象として、路線バス運賃の半額補助を実施しているほか、地域振興協議会によるタクシー運行事業や、公共交通空白地有償運送事業への支援を行っているところであります。

他市町村では、免許証の返納に併せタクシーや路線バスのチケットの交付、商品券の配布などを実施している事例もあることから、岩泉警察署等関係団体とも連携し、調査研究してまいりたいと考えております。

また、高齢者の交通手段の確保については、

町民の皆様の生活の足を確保していくことが、  
地域を存続していくうえでも重要と考えお  
りますことから、全国の先進地事例等を調査研  
究し、本町に適する  
交通体系となるよう引き続き検討してまいり  
たいと考えております。

以上で答弁を終わります。